

小学校

平成 8 年 度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

教育研究員名簿

低・分科会	新世田	宿谷野	戸塚第二小	◎小野江 隆
	中板	橋馬	八幡田小	徳島 暁子
	練立	川島	多田舟渡小	□前田 智子
	昭小	平谷	光が丘第二小	銭場 敬子
	保武蔵村山		第四小	岩佐 青葉
			神木小	國分美枝子
			鈴木小	小林 利恵
			泉第九小	村井 尚子
				河村 直美

中・B分科会	江品目大足江	東川黒田立川	明治八潮月光原馬込北鹿浜西	□大柳 秀子
				土屋 正彰
				◇飯田美弥子
				塚越 悦子
				八木澤京子

高・A分科会	大豊北練足葛江	田島馬立飾戸	南蒲高西ヶ原仲町千寿柴又第二松江小	◇平林久美子
				□酒井由美子
				野川 清美
				五十嵐敏也
				八戸 理恵
				佐竹 敦子

中・A分科会	港洪武三多日の	赤坂千駄井第七南大	鈴木 伸作
			○大橋美千子
			五十嵐仁美
			□伊本 一美
			浜田 早苗

高・B分科会	文世杉八府町	京田並王子中田	元町松杉並横山府中第五南第四小	千葉 恭子
				◇大柳ひろみ
				□福田 聡子
				石村 秀子
				清武 理孝

◎全体世話人 ○全体副世話人
□分科会世話人 ◇全体記録

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 笠原 慎太郎

目 次

I 共通研究主題	
1 共通研究主題設定の理由	2
2 共通研究主題に対する基本的な考え方	3
3 研究の内容と方法	3
4 研究の構想	4
II 研究の概要	
1 読みにおける話す・書く活動を通して児童に付けたい力と望ましい姿	5
2 各分科会における実践事例（『学習活動の工夫』）	
○ 高学年A分科会	9
『互いの「読み深めアラカルト」を読み合い、自分の表現に役立てる』	
○ 中学年A分科会	12
『「学び合い」という活動を通して、自分の思いや考えをよりよく表現しようとする』	
○ 低学年分科会	15
『「たからさがし」によって楽しく伝え合い、自分が書いたものを振り返る』	
○ 高学年B分科会	18
『「交流」という活動の効果によって、考えや思いをよりよく表現しようとする』	
○ 中学年B分科会	21
『「ピカイチ、いただきカード」で自分のよさに気づき、よりよく表現しようとする』	
III 研究の成果と課題	24

＜要 約＞

これからの児童は、伸び伸びと自らの個性を存分に発揮し、自己実現を図ることのできる力が求められている。その力を高めるためには、様々な価値を認めながら様々な人間とコミュニケーションを図り、お互いの素晴らしさに気付く能力をつけなければならない。

本研究は、読みの過程における話す・書く力を見直し、個性の発揮と自己表現力育成につながるものを明らかにし、お互いのよさに気づきながら自分の表現力を高めていこうとする児童の育成を目指したものである。

I 共通研究主題 自己を表現する力を育てる指導の工夫

—— 読みを通して、話す・書く力を伸ばす指導 ——

1 主題設定の理由

21世紀に向けて、これからの社会を担う児童にとって、目の前にあるのは、価値が多様化し、国際化・情報化の進展した、急激に変化する社会である。そのような社会において、多様な価値を認めながらも、自分の考えを持ち、社会に主体的に対応し、心豊かにたくましく生きていくことのできる人間が強く求められている。

児童の実態として、近年不登校の数が過去最高となり、第15期中央教育審議会の答申においては、その原因の一つとして人間関係をつくる力が弱いことをあげている。更に少子化の進行で、家庭で本来培われるべきコミュニケーション能力が低下してきている。

一方、パソコンの進歩やインターネットの普及により、多様な情報から自分が必要としているものをうまく取り出し、選択し、使い分ける能力が飛躍的に伸びてきた。今後は、自分の情報を送ったり、伝えて広めたりする能力が今以上に必要とされるようになるだろう。

こうした社会において、これからの児童に求められているものは、伸び伸びと自らの個性を存分に発揮し、自己実現を図ることのできる力である。その力を高めるためには、様々な価値を認めながら、様々な人間とコミュニケーションを図り、主体的に人と関わりながら、言語を通して、お互いの素晴らしさに気付く能力を付けていかなければならない。

国語科においては、自分の思いや考えを自分の言葉で表現し、友達の表現を自分の表現に生かすことのできる能力、及び学び合える人間関係を自ら作っていかうとする態度を養うことが必要である。これらの教育課題を踏まえ主題を設定した。

2 研究主題に対する基本的な考え方

私たちは、表現力育成における望ましい児童の姿を次のようにとらえた。

- ・進んで自分や友達のよさを共有しながら、自己を表現しようとする児童
- ・自分の思いや考えを、豊かに表現する力を身に付ける児童
- ・身に付けた自己表現力を学習や生活に生かし、役立て、よりよい人間関係を作ろうとする児童

上記の児童像を目指すために、次のような3つの基本的な考え方に立ち、学習指導の改善を図っていくことにした。

A 自分の言葉で、自分らしく表現できるように

自己表現力を『自分らしさを取り入れて表現することができる活動を支える能力』であるととらえた。児童が自分の思いや考えを自分の言葉で表現できることが、自分の個性の発揮であるととらえた。それは、同時に、相手に自分を理解してもらうことである。

国語科で培われた自己表現力は、国語の教科を越えて主体的な活動として広がった時に、生きて働いていく表現力となると考える。

B 「読みの過程における表現力を伸ばす」視点に立つ

読みの過程における話す・書く活動を見直し、個性の発揮と自己表現力の育成につながるものを明らかにしていくことを切り口として研究を進めることにした。

そのためには、児童が、読みのどの過程において、自分の思いや考えを表現したいのかを

明確にすることである。ただ活動を計画し、させていたという反省に立ち、①活動の必要性があるか。②どこでどんな話す・書く活動を設定すれば、どんな力がつくか。を見直すことにした。これらは、『読みの過程における話す・書く力』の具体的な力を望ましい児童の姿として明らかにすることである。

C 友達の表現に共感し、よさに気付くことのできる活動の場の設定と個に応じた支援と評価

自分の言葉で表現したものを相互に伝え合う場を設定し、児童が目的意識・相手意識を持って表現しようとするれば、その意欲は再び読みの力へ転移するという相乗的な効果が働くと考えた。伝え合う場面では、表現したものを振り返ったり、学び合ったりすることによって、自分の表現へと何らかの形で生かしていくようになる。自分や友達のよさに気付くことのできる力（自己評価・相互評価能力）は、『個の読み』が充実してこそ備わっていく。そのためには、教師が『個の読みの力』をしっかりと見据えたうえで、『個に応じた支援・評価』を工夫しなければならないと考えた。

3 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

研究主題に迫るために次のことを切り口として研究を進めることにした。

- ①自分の言葉で、自分らしく表現できる多様な表現活動の工夫をする
- ②児童がお互いのよさに気づき、自分の表現に生かすことができる単元展開の工夫をする
- ③児童のよさを生かすための個に応じた支援と評価の工夫をする
- ④国語科の基礎・基本的な内容を新しい学力観からとらえなおし、表現と理解との関連を明らかにし、それを望ましい児童の姿としてとらえ、単元の学習や発達段階に応じて、児童に付けたい力や望ましい姿のあらいだしをする（これらをてがかりにすれば、支援・評価計画をより効果的に立てていくことが可能となると考えたからである。）。

(2) 研究の方法

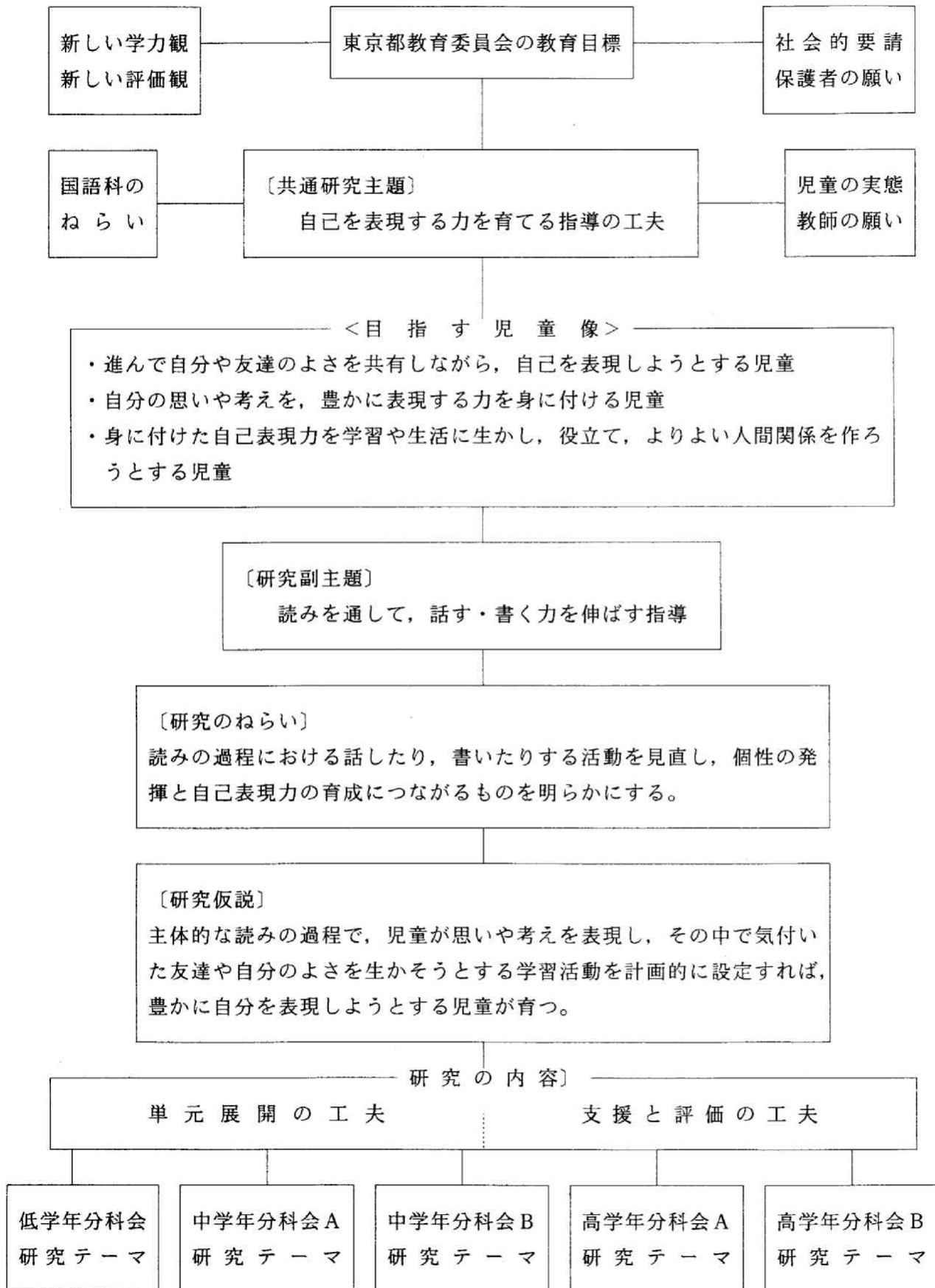
研究主題の具体化を図るために、次のような仮説を立て、それに基づいて5つの分科会を構成し、それぞれの分科会研究主題を設定し研究を進める。

〔研究仮説〕

主体的な読みの過程で、児童が思いや考えを表現し、その中で気付いた友達や自分のよさを生かそうとする学習活動を計画的に設定すれば、豊かに自分を表現しようとする児童が育つ。

- ・低学年分科会 『読んで感じたことや考えたことを、楽しく表現し伝え合う児童を育てる学習活動の工夫』
- ・中学年A分科会 『相手とのかかわりを大切にしながら、進んで話す児童を育てる学習活動の工夫』
- ・中学年B分科会 『読みの中で自分の思いや考えを、自分のよさをいかしながら表現（書く）する児童を育てる学習活動の工夫』
- ・高学年A分科会 『目的意識をもって互いの読みを学び合うことを通して、適切に自分らしく表現する児童を育てる学習活動の工夫』
- ・高学年B分科会 『イメージ豊かに読む中で、自分の考えを深め、よりよい表現（書く）を求めていく児童を育てる学習活動の工夫』

4 研究の構想



II 研究の概要

1 読みにおける話す・書く活動を通して児童に付けたい力と望ましい姿

自 分 の 読 み を も つ (一人読み)		
学年	児童に付けたい力	望 ま し い 児 童 の 姿
1 ・ 2 年	○作品の楽しさ、おもしろさを感じ取る力 ○自分の読みを自分の言葉で表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を見て分かったことや想像したことを話している。 ・心に残ったことなどを中心に感想を書いている。 ・サイドラインを引いたり書き込みをしたりしている。 例)好きなところ・様子や気持ちの分かるところなど ・登場人物の気持ちを想像し、吹き出しや日記に書いている。 ・場面の様子や人物の気持ちを、紙芝居や絵本などに書いている。 ・読み取ったことを絵にかいている。 ・言葉のもつイメージを擬音語や擬態語で表現している。
3 ・ 4 年	○作者や筆者が言おうとしていることを感じ取り、読む目的をもつ力 ○自分で表現方法を選び自分の読みの要点や中心点が分かるように表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引いたり、書き込みをしたりしている 例)中心文・様子や気持ちの分かるところ・感動したところ など ・学習のめあてや見通しをもち、学習計画を学習シートに書いている。 ・課題解決のための表現方法を選び、書いている。 例)日記・絵本・手紙・新聞・パンフレット・Q&A・クイズ など
5 ・ 6 年	○細かい点にまで注意しながら、自分の力で全文を読み、学習の見通しをもつ力 ○目的に合った表現方法を選び、自分の読みを分かり易く工夫して表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドラインを引いたり、書き込みをしたりしている。 例)感想・疑問・登場人物の心のつぶやき など ・単元全体の学習の流れを学習シートに書いている。 例)手作りの本の目次 など ・友達に自分の考えが伝わるように工夫して書いている。 例)日記・手紙・詩・短歌・俳句・漫画・イラスト ・脚本・紙芝居・Q&A など

読みの視点を広げる（主に読み合い・聞き合い）

学年	児童に付けたい力	望ましい児童の姿
1 ・ 2 年	<p>○楽しく伝え合い、考えや表現のよいところや違いに気付く力</p> <p>○気付いたよさを相手に伝えたり、自分の表現の中でまねたりする力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書いたものを自分との違いに興味をもって読み合っている。 ・友達の書いたものの中に、友達の考えや表現のよい点を発見している。 ・友達の考えや表現のよい点を、友達の相互評価カードに書いたり、シールを貼ったりしている。 ・書いたものを読み合い、よい点や異なる点を言い合ったり、分からないことを聞き合ったりしている。
3 ・ 4 年	<p>○自分が読み取って書いたものを互いに読み合ったり聞き合ったりして、友達の考えや表現のよさに気付く力</p> <p>○気付いたよさを相手に分かり易く伝えたり、自分の表現に取り入れたりする力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書きまとめたものを読む目的を明確にして読み合っている。 ・友達の書きまとめたものを読み、自分の考えと似ているところや異なっているところに気付いている。 ・友達の書きまとめた方法や内容を聞いて分かったことを話したり、疑問に思うことを尋ねたりしている。 ・友達の書きまとめた方法や内容のよいところを取り入れ、つけ加えたり直したりしている。 ・分かり易く感想やアドバイスを書いて交換している。
5 ・ 6 年	<p>○友達から何を学ぶのかという目的意識をもって読み合ったり聞き合ったりし、考えや表現のよさに気付く力</p> <p>○友達の考えや表現のよさに共感し、互いに高め合おうとする力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「友達に尋ねたり確かめたいこと」「友達に伝えたいこと」を学習シートに記入したり、印を付けたりしている。 ・読み合いをしながら、確かめたいことや疑問点などを尋ね合っている。 ・友達の読みの中に、自分とは異なった視点を発見し、進んでメモをとっている。 ・メモを生かして、学習シートに加除修正をしている。 ・短い時間に分かり易く感想やアドバイスを書いて交換している。

読みをさらに深める(主に話し合い)

学年	児童に付けたい力	望ましい児童の姿
1 ・ 2 年	○友達と自分の考えを比べる力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝え合いをした友達の考えや表現の中で、よかった点や自分とは異なった点を発表している。 ・ 伝え合ったことをもとに、自分の表現に付け加えたり直したりしている。
3 ・ 4 年	○自分の考えと友達の考えを比べたり、自分の考えをより分かり易くまとめたりする力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のものの見方・考え方と結び付けながら読み、それを書いたり話したりしている。 ・ 各自の読みの違いについて気付いたり、話し合ったりして、文章のもつ意味について正確にとらえようとしている。 ・ 作者や筆者の意見に対する自分の考えをもち、それを進んで発表している。
5 ・ 6 年	○グループや学級全体の話し合いの中で、より多くの友達の考えと自分の考えを比べ、深める力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み合い・聞き合いをして、他の友達にも紹介したいことやみんなで話し合いたいことなどを発表し合い、話し合いの焦点をしぼっている。 ・ グループや一斉での話し合いの中でも、自分の考えと比べながら聞いたり、気後れせずに自分の考えを話したりしている。 ・ 友達の考えを聞きながら、必要なことがらを進んで学習シートにメモしている。

学習を振り返り，自分の読みをまとめる

学年	児童に付けたい力	望ましい児童の姿
1 ・ 2 年	○読み深めたことを生かし，自分の言葉で楽しく表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の感想を書き，自分の学習を振り返っている。 ・読み深めたことを生かして，続き話などを書いたり，発表会をしたりしている。 <p style="margin-left: 2em;">例) 音読・ペープサート・紙芝居など</p>
3 ・ 4 年	<p>○読み深めたことを生かし，分かり易く表現する力</p> <p>○一時間の学習を振り返り，自己の変容に気付く力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取った感想を自分らしく表現したり発表したりしている。 ・自分の言葉であとがきなどを書いている。 ・読みの深まりや学び方について振り返り，次のめあてをもっている。
5 ・ 6 年	<p>○友達の考えや表現から学んだことを生かし，適切な言葉で表現する力</p> <p>○単元全体の学習を振り返り，互いの変容を認め合う力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み深めたことを生かして，新たに自分の言葉で文章を書いている。 <li style="margin-left: 2em;">例) 手作りの本のあとがき など ・発表会などを開き，効果的に表現する方法を工夫している。 ・互いの読みの深まりや表現の高まりについて，発表し合ったり感想を書いたりしている。

・この表は，この1年間，各分科会で目指した「児童に付けたい力」と「望ましい児童の姿」の中心となる部分をまとめたものである。さらに詳しい学習活動例及び教師の支援については，各分科会の研究のまとめを参照されたい。

2 各分科会における実践事例

高学年A分科会

研究主題

目的意識をもって互いの読みを学び合うことを通して
適切に自分らしく表現する児童を育てる学習活動の工夫

第6学年

互いの「読み深めアラカルト」を読み合い、自分の表現に役立てる

(1) 教材名 「石うすの歌」

(2) 研究主題と教材とのかかわり

本教材は、石うすが歌う様々な歌を通して、戦争の過酷さに負けず強く明るく生きていこうとする人々の姿を描いている。おかれている時代や状況は大きく異なるものの、児童にとって自分と同年代の主人公千枝子が成長していく様子を、その言葉や行動に共感しながら読み、その生き方について自分の考えや感想をもつことができる作品である。その自分らしい考え方を自分に合った方法で書き表し、毎時の学習記録（ワークシート）を一冊の本に仕上げるという単元全体を通してのめあてを設定した。その過程において、よりよい表現や新たな読みの深まりを求めて、互いに読み合ったり話し合ったりする活動を取り入れることにより、一層表現意欲の高まりが期待でき、自己の変容にも気付かせることができると考えた。

(3) 学習計画の概要（全10時間 本時7/10時）

時	主な学習活動	主題にせまるための具体的な手立て（・支援◎評価）
第一次 (2)	・全文を読み、初発の感想をもとに学習計画を立てる。	・本単元において挑戦してみたい表現方法を考えさせ前単元での学習が活かされるよう意識づける。 （「読み深めアラカルト」） ◎自分の学習課題と単元全体の見通しがもてたか。
第二次 (6)	・石うすの歌を中心にしながら、場面ごとに千枝子の気持ちを読み取り、自分に合った方法で書き表す。	・書き終わった児童同士、作品の読み合いをさせ、読み合いアドバイスカードに評価を記入させる。 ・友達からのアドバイスをもとに、加徐修正を促す。 ・一斉学習で取り上げる例は、視覚を通して表現の工夫に気付かせるためにOHPで映し出す。 ・作業の進まない児童には、ヒントカードの活用を促す。 ◎本文の言葉に着目しながら読んでいるか。 （キーワードの視写） ◎友だちの考え方や表現のよさに気づき自分の表現に役立てようとしているか。
第三次 (2)	・戦争をテーマにした他の教科書作品を読み、自分の考えを書く。	・いくつか読み比べることで共通点や相違点を見つけ戦争や自分の生き方についての考えをもたせるために本の「あとがき」を書き加える。 ◎戦争や自分の生き方について、考えが書けたか。

(4) 本時の指導

- ①目 標 ・言葉を選んだり考え出したりしながら、読み取った事柄を意欲的に表そうとする。
 (関心・意欲・態度)
- ・石うすをひいたときの千枝子の気持ちを想像することができる。(理 解)
- ・叙述に即して想像したことや自分の考えを自分の選んだ方法で表現することができる。(表 現)

②展 開

※本時は1.5時間扱いのため、研究授業時は学習活動の3から行う。

学 習 活 動 表 現 活 動		・ 支 援 ◎ 評 価
1 本時の学習課題を把握する おばあさんに代わって、石うすを引いたときの千枝子の気持ちを読み取り、自分の言葉で書き表そう。		・本時で挑戦する自分の表現方法(読み深めアラカルト)を確認させる。
2 読み取った千枝子の気持ちを自分の言葉で書き表す。	気持ちのよく表れている言葉を視写し、自分の選んだ方法で書き表す。	・ヒントカードの活用を促す。 ◎言葉に着目し視写できたか。 ◎千枝子の成長ぶりに気付いて表現できているか。
3 書き表したものを互いに読み合う。	友達の表現したものと自分とを比べながら、アドバイスカードに感想などを書く。	・友達の考え方や言葉の使い方を見合うよう助言する。 ・読み合いの途中でも随時、自分の表現の加徐修正を促す。 ◎友達の表現方法や考え方に関心を寄せているか。 ◎読み合いアドバイスカードに自分の考えが書き表せたか。
4 全体で話し合う。		・千枝子の気持ちの変化をとらえている児童の表現を例示し、主題についての考えを深めさせる。
5 話し合ったことをもとに自分の表現を加徐修正する。	学習して気付いてことや深まった考えを生かして、自分の表現をよりよく再構成する。	◎学習したことを積極的に自分の表現に生かしているか。
6 学習の感想を書く。		

③評 価

- ・言葉にこだわりながら意欲的に表現したり、友達の表現したものにも関心をもったりできたか。
- ・おばあさんに代わって石うすを引いた千枝子の気持ちが表れている言葉を見つけ、そこから想像して読み深めることができたか。
- ・叙述に即して想像したこと、自分の考え等を自分の選んだ方法で表現し、友達との学び合いを生かすことができたか。

(5) 研究の成果と課題

< 成 果 >

ア 単元全体の構成の工夫

「千枝子の気持ちを自分の言葉で」という単元のめあてを設定し、自分の立てた学習計画にそって、毎時間ごとの学習記録（ワークシート）を1冊の本にまとめ上げていく活動を通して、児童に読みながら表現していく目的を明確に持たせることができた。

友達と交流しながら学習を進め、一層言葉にこだわりながら表現できるようになった自分を、記録を振り返ることで確かに実感できたように思われる。そのことが次への学習意欲に結びつき、単元終末までめあてを持って学習することができた。

イ 目的（相手）意識を持たせる工夫

表現したものを互いに発表し合い、それぞれのよさを味わうという活動だけでは、これまで十分に表現力が育成されなかった。この反省をもとに本単元では、書き表した作品そのものを互いに読み、助言、評価し合う活動を取り入れることにした。その結果、同じ場面で似たような読み取りをしていますが、それぞれが自分らしい言葉に置き変えていることに強く関心をもって、鑑賞し合うことができた。

また、読み合いアドバイスカードに、よかった表現について具体的に書かせることで双方が効果的な言葉の使い方をより一層意識するようになり、自分の考えや表現をよりよいものにすることをめざす姿勢が徐々に養われてきた。

学び合いを通して多様な表し方のよさに触れ「自分の好きな方法で」というだけでなく、「その課題に対してより効果的な方法で」表そうとする児童が増え、当初の計画を修正しながら方法を変えたり、いくつかを合わせて表したりと進んで表現する楽しさを味わっている様子も認められた。

< 課 題 >

ア 「読みを通して表現力を育てるとは」をいま一度とらえなおす必要がある。表現の仕方に重点を置き過ぎることなく、作品の理解を深め、主題に触れさせる学習もさらに充実させていくように、指導の工夫を講じなければならない。

イ 読み合いアドバイスカードの生かし方をさらに工夫する必要がある。せっかくよい着目がなされていても、書き残していただくだけでは一方通行になってしまう。考えをもった話したくなるという児童の思考の流れにそいながら対話の場も与えていくと、お互いがより深く分かり合えるうえに、全体での発表に抵抗のある児童も自分の思いを表出する機会がもてると考えられる。

書くこと、話すことを効果的に取り入れた学習活動をさらに研究していきたい。

ウ 友達のよさを自分の文章にも生かし、さらに表現を高めるための読み合い学習を成り立たせたかったが、友達の書いたものを「見たい」「知りたい」という興味・関心に終始してしまった児童も多かった。

児童自らが目的意識を持った学び合いのあり方について、今後もさらに検討を深めたい。

中学年 A 分科会

研究主題

相手とのかかわりを大切にしながら、
進んで話す児童を育てる学習活動の工夫

第 4 学年

「学び合い」という活動を通して、自分の思いや考えをよりよく表現しようとする

(1) 教材名 「白いぼうし」

(2) 研究主題と教材とのかかわり

本教材は、現実と空想が巧みに交錯し、詩的で繊細なみずみずしいイメージを抱かせるファンタスティックな童話作品である。主人公はじめ登場人物の心優しい交流が楽しく温かく描かれている。

児童は、楽しみながら場面の情景や人物の気持ち・行動を想像豊かに読み取ることができる。また、自らの疑問や感想・意見も多くもつことができる。そこで、共通の学習課題について自分の思いや考えを整理し、グループ形式で自由に話し合う学習活動を設定した。

相手の話を自分の思いや考えと比べながら聞き、それを受けて自分の思いや考えを相手に聞いてもらいたいという意欲をもって話す。明確な相手意識や目的意識をもって話し合い、聞き合うことで、友達の表現に共感し、友達のよさや自分のよさを共有することができる。それによって充実感や満足感を味わいながら、個性をのびし、自己表現力が育っていくものと考えた。

(3) 学習活動の概要 (全 11 時間・本時 9 / 11)

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的手立て（・支援◎評価）
一 次 (1)	・「車のいろは空のいろ」から他の作品を読む。	・あまんきみこの描く独特の世界の雰囲気になじむようにする。（音楽・地図） ◎ストーリーや松井さんについて感想がもてたか。
二 次 (8)	・初発の感想をもとに、学習課題を考え、学習計画を立てる。 ・課題について話し合う。 （グループ・全体） ☆夏みかんを車に入れた松井さんの気持ちを考えよう。 ☆松井さんはどんな人か考えよう。 ☆女の子はちょうだったのか、考えよう。（☆印は課題）	・初発の感想をもとに学習課題を考え、学習の見通しをもつようにする。 ・根拠になる叙述に線を引いたり、書き込みをしたりして、自分の考えをもてるようにする。 ・自分の話し合いのめあてに留意させ、話し合いで読みが深まるようにする。 ◎友達の考えのよさを取り入れながら、自分の考えを日記や手紙、吹き出しにまとめることができたか。
三 次 (2)	・「車のいろは空のいろ」などから好きな作品を選び、感想を交流する。	・他の作品についてストーリーや松井さんの人柄についての感想を話し合うようにする。 ◎感想を進んで発表することができたか。

(4) 本時の指導

- ①目 標 ・読み取ったことを進んで話し合おうとする。 (関心・意欲・態度)
 ・「女の子はちょうどだったのか」について、相手の考えを受けて話したり、自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。 (表現・理解)
 ・女の子の気持ちや様子を想像豊かに読むことができる。 (理 解)

②展 開

学 習 活 動 表 現 活 動		・ 支 援 ◎ 評 価
1 学習課題を知る。		
「女の子はちょうどだったのか」について話し合おう		
2 本文を読む。(3・4場面) 微音読		・前時に用意した「話し合いメモ」の内容を確かめながら読むようにする。
3 話し合いのめあてを決める。		・自己評価カードで、共通のめあてと、個人のめあてを確かめるようにする。
4 課題について話し合い、自分の考えを確かにする。	グループで、話し合う。 相手の話を受けて話し、自分の考えと比べながら聞く。	・「話し合いメモ」をもとに話し合うようにする。 ・話し合いの様子をつかみ、適切に助言する。 ◎読み取ったことを進んで話し合おうとしているか。
5 話し合いを通して読み取ったことを、自分の好きな方法でまとめ、発表する。	話し合ったことをもとに、自分の読みを書く。 自分の考えと比べながら聞く。	・吹き出し、日記、手紙、感想のカードを用意する。 ◎想像豊かに読むことができたか。
6 本時の学習を振り返り、話し合いの自己評価をする。		◎話し合いのめあては達成できたか。

- ③評 価 ・意欲をもって話したり聞いたりしようとしたか。
 ・相手の考えを受けて話したり、自分の考えと比べながら聞いたりすることができたか。
 ・友達と話し合うことによって読みを深めることができたか。

(5) 研究の成果と課題

< 成果 >

① 単元展開の工夫

- ・導入で「車のいろは空のいろ」を読み聞かせたり，作品をテーマにした音楽を聞かせたりした。それによって，主人公の人柄や物語の雰囲気を知ることができるようになった。また，本単元「白いぼうし」への興味関心をもつことができるようになった。
- ・学習課題は児童の感想をもとにして，主体的な話し合いができるように設定した。その結果，大部分の児童が自分の考えをもち，主体的に話し合いに参加できた。
- ・ワークシートの活用のねらいは，第一に叙述に即した読みを意識づけることである。本文を載せたワークシートは書き込みやすく，考えの根拠を確認しやすかった。第二に読み取ったことを人に話すときに抵抗をなくすことである。話し合いの際に何を話したらよいか分からない児童にとっては，話すことがまとめられてあるので，抵抗なく話すことができた。
- ・話す機会を多くするため，話し合いは少人数グループで行った。また，グループは偏りがなないように読む力・聞く力・話す力を踏まえて編成した。それにより，一人一人が活発に話し合いに参加できた。

② 支援・評価

- ・一人読みの段階で児童のワークシートに助言を加え，話し合う視点をはっきりさせることができた。
- ・「話し合いの手引き」を作成し，話し合いの進め方やマナーを理解させた。話し合いが苦手な児童は話し合いのルールを知ることによって，話すことへの抵抗がなくなり，児童全員が話し合いに参加することができるようになった。
- ・グループの話し合いを充実させるために支援計画を立てた。また，児童のワークシートから，読みの実態を把握し，読み間違いや重要なポイントの欠落が分かるように個人の支援表を作った。これにより，児童につけさせたい力が明確になり，適切な助言を与えることができた。
- ・自己評価カードには，話し合いに必要な聞く話す技能を表にし，さらに，自由にめあてを書き込める空欄を設けた。自己評価することで児童は自分の活動の様子を振り返ることができ，次のめあてをもつことができた。

< 課題 >

話し合いの基礎を身に付けさせることに重点をおいたため，読み深めが弱かった。読む中で，表現（話し合い）し，また読みに戻るといった位置付けで研究を深めたい。そのためには，まず，学習課題の見直しである。多様な考えが出る課題，読み深まる課題を設定したい。また，児童が話したい，聞きたいと思えるような必然性のある話し合いを計画的に設定することが大切である。それには，指導の組み立て方をもう一度見直し，書く，読む，話すなどの様々な活動を効果的に組み合わせ，単元計画を組んでいきたい。さらに，よい話し手とよい聞き手の育成である。真剣に聞いてくれる聞き手がいるからこそ，話し手は心を許し話したいことを自由に言えるのである。

低学年分科会

研究主題

読んで感じたことや考えたことを、
楽しく表現し伝え合う児童を育てる学習活動の工夫

第2学年

「たからさがし」によって楽しく伝え合い、自分が書いたものを振り返る

(1) 教材名 「えいっ」

(2) 研究主題と教材とのかかわり

本教材は内言まで含めると、実に五十あまりの会話によって物語が成り立っている。くまの親子の会話を中心に、その心情を思いやりながら、楽しく読ませたい。

音読後、大きな絵を前に、お面をかぶって動作化する。これは、登場人物の気持ちを考えるための導入として有効と考えた。

吹き出しを書く時には、数種のヒントカードを用意し、欲しいと思う児童が自分で選べるようにする。「書き方がわからない。」「書き出しが見つからない。」などの問題点を克服し「自分でも書いてみよう。」という意欲につなげたい。

さらに、友達の吹き出しから、めあてにあったよい表現を見つけてくる「たからさがし」の活動も取り入れる。「たからさがしカード」に、自分が気付かなかったことや、自分とは違う表現の仕方を集めてくる。楽しみながら伝え合うことによって、自分の表現をもう一度見直し書き直したり、書き加えたりという活動にも意欲的に取り組めると考えた。また、たからさがしの成果を発表し合うことで、自分の表現の向上への意欲も期待したい。

(3) 学習計画の概要（全16時間・本時10/16 ※印）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手だて（・支援◎評価）
第一次 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・「えいっ」の体験を発表し合う。 ・初発の感想を書き、発表する。 ・登場人物について話し合ったりできごとを確かめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎成功した体験を発表できたか。 ・提示。 ・さし絵を生かした大きな絵を提示する。 ・会話にシールをはる。 ・気持ちが表れているところにサイドラインを引く。 ◎自分の言葉で、発表できたか。
第二次 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・各場面のくまの子の気持ちを考え、吹き出しに書く。 ・たからさがしをする。 ※本時は、くまの子が電車の中で黙って何か考えている場面。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読→・動作化（お面、ペープサート）→・吹き出しに書く（ヒントカード）→・たからさがし（たからさがしカード）→・書きたしたり、直したりする→・発表というサイクルで各場面の学習をする。 ◎それぞれの活動を進んでできたか。
第三次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・続き話を考えて、書く。 ・続き話を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で書けない児童は、2～3人で書いてもよいことにする。 ・叙述からそれないように助言する。 ◎続き話を考えて書き、進んで発表できたか。

(4) 本時の指導

- ①目 標・黙って考えている時のくまの子の気持ちを、進んで吹き出しに書き、読み合おうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・黙って考えている時のくまの子の気持ちを話し合ったり、吹き出しに書いたりできる。 (表現)
- ・お父さんのまねをしたくまの子の行動や気持ちを読み取ることができる。(理解)

②展 開

学 習 活 動 表 現 活 動		・ 支 援 ◎ 評 価
1. めあてを確かめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習の流れに沿って確かめられるようにする。 ・背景の絵をはり、雰囲気をつくる。
くまの子は、だまって何を考えているのだろう。		
2. めあてをふまえて、各自微音読する。	2. くまの子の気持ちが、書かれていることをおさえながら読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・読みに抵抗のある児童には個別に助言する。 ◎微音読できたか。
3. 5・6場面のくまの子になり、動作化する。	3. くまの子の気持ちを考えながら動作する。気持ちをつぶやく。	<ul style="list-style-type: none"> ・書き出せない児童には、ヒントカードをわたす。 ◎自分の言葉で、吹き出しを書くことができたか。
4. くまの子は、黙って何を考えたかを考え、吹き出しに書く。	4. くまの子の気持ちを考え、自分なりの言葉で書く。	
5. 吹き出しに書いたことをお互いに読み合う。	5. 友達の吹き出しから、めあてにあったよいと思うところなどを見つける。	
6. 読み合ったことをもとに書き加えたり、修正したりする。	6. 場所を考えて書き加えたり、修正したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・見てまわり、助言する。 ◎見つけた「たから」を生かすことができたか。
7. 見つけた「たから」や吹き出しを発表する。	7. 「たから」や吹き出しを発表し合う。	◎進んで発表することができたか。
8. 授業の感想を書く。	8. わかったことやよかったことを書く。	◎感想を書くことができたか。

③評 価

- ・めあてについて考えながら、動作化し、吹き出しを書き、読み合うことができたか。
- ・読み合うことにより、自分の考えを振り返ったり、広げることができたか。

(5) 研究の成果と課題

<成果>

① 伝え合う活動…「たからさがしカード」を通して。

- ・友達が書いた吹き出しを読み、自分が気付かなかったことや、まねしてみたい表現を発見する「たからさがし」の活動を喜ぶ児童が多く、熱心に取り組む姿が見られた。
- ・いいと思った友達の表現を写してくるによって、自分の吹き出しを読み返したり、自分の吹き出しに書き足したりすることができた。
- ・子供たちが好んで使うようになった言葉が「たからさがし」の活動によって生まれた。
例・まほうつかい・ころあいのリズム・「えいっ」の一日
- ・声かけにより、見つけてきた言葉を、自分なりの言葉に変えて使える児童も出てきた。
- ・直したり、つけ足したりする活動への抵抗が少なくなった。
- ・「どの位書けばいいのか。」と分量を気にすることがなかった。
- ・書き写してくるだけでなく、内容や表記についての会話も生まれていた。
- ・児童の活動の自然な流れは、「たから」を見つけて、すぐ発表するより、自分の吹き出しを読み返したり、直したり、つけ足したりすることが先だった。
- ・読まれることが書くことへの励みになった。

② 単元展開について

- ・お面をかぶったり「動作化」したりすることは、吹き出しを書くために有効であった。
- ・授業感想には、たからさがしのことを書く児童が多かった。活動にしっかりと取り組めたかどうかについて書く児童もいた。くまの子の気持ちをまとめるような形で、書く児童もいた。評価にも役立った。
- ・続き話を書く活動にも、スムーズに入っていける児童が多かった。教科書の話から極端にはずれたお話を書く児童も少なかった。吹き出しに書いたことを生かして書いている児童が多かった。

③ 支援と評価について

- ・吹き出しを書く時のヒントカードは、児童自ら、必要と思ったら、考えて選択していた。
- ・「書き出し」のヒントカードと「ヒントになることば」のヒントカードを合わせて使っている児童もいた。
- ・「支援表」が児童の実態をつかむ上で役に立った。

<課題>

- ① 児童が「たからさがし」で何を写してくればよいかを明確にする手だてが必要である。
 - ・お互いに「たから」となりうるものを自分の吹き出しの中に表現するには、読み取りが大切になってくる。
- ② そのためには、読みを深めるための手だての充実が必要になる。
- ③ 「支援表」への書き込みに時間がかかるので、実用的なものにする。
 - ・いくつかの活動が交差するので、実態を把握した上での支援が大切である。

- (1) 教材名 「地図のある手紙」
 (2) 研究主題と教材とのかかわり

本教材は「源さん」という登場人物の視点で展開する物語である。従って、源さんの内言や様子の文章表現が多い。児童にとって、想像を広げて読むための手がかりとなる叙述も数多くあることになる。源さんの優しさや温かさ等について、叙述に即してイメージ豊かに想像して自分の考えや思いをもつことが比較的容易な作品といえる。また、行動描写や情景描写などの文章には源さんの一郎に対する思いがこめられているため、児童に源さんや一郎の視点をもたせることでその心情に迫りやすい。支援として、源さんの人柄や性格について読む「源さんシート」や一郎の「紹介シート」をまとめる等の学習方法を取り入れ、児童が書くことで自分の思いや考えを表現できるようにした。また、主体的に自分の思いや考えをもったり、友達の思いや考えを参考にして考えたりする等、読み進めて自分の言葉で表現する（書く）よさや楽しさ、満足感などに気付かせることができる教材である。

このように、自分の思いや考えを深めるために効果的な刺激の場となる学習活動のひとつとして、単元展開の工夫の中心に「交流」をとらえた。この交流を、一人読みの段階における交流（「自分と自分の交流」＝「交流ア」とする）他者の力も借りて自分の読みを深めたり変容させたりするための交流（「自分と他者の交流」＝「交流イ」とする）の二段階に整理して位置付けた。＜自分＞の中に見いだす相手は自分自身が表現した（書いた）ものであったり主体的に関わって読んでいる作品そのものであったりする。「交流」の相手が自分であれ「他者」であれ、「交流」によって児童は自分の表現を見直したり振り返ったりしながら広げることになり、今あるものより「よいもの」にしたいという意欲が喚起される。自分の考えをつくっていく過程を大切にするというねらいに沿って、児童が表現（書く）の交流をもてるように支援することにより、一人一人の読みにおける表現したものを充実させて自己を表現する力を育てることができると考えた。

- (3) 学習計画の概要（全10時間・本時7/10）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手立て（・支援◎評価）
第 一 次(2)	全文を読み初発の感想を書く。 学習課題を作り計画を立てる。	・心に残ったことを中心に書くように助言する。 ◎学習活動の見通しをもてたか。
第 二 次	源さんの人柄や気持ちについて まとめる。 一本杉に着くまでの源さんの思 いを想像する。	・源さんシートや一郎の「紹介シート」をまとめ、 源さんの人柄をつかみ、一郎への思いを想像する よう助言する。 ◎源さんの思いを自分なりの言葉で書き表せたか。 ・一本杉までの道のりをたどりながら、手紙を配達 する源さんの思いを想像するよう支援する。

第二次 (6)	一郎の手紙をよんだ源さんの思いを想像する。	◎手紙を配達する源さんの思いを自分なりの言葉で書き表せたか。 ・P18の最後の5行を丁寧に読み取るよう支援する。 ◎手紙を読んだ源さんの思いを自分の言葉で書き表せたか。
第三次 (2)	一郎の手紙に返信を出す。 作品を交換して、お互いの感じ方を知る。	・自分の選択した手法（手紙、日記など）で源さんと一郎の心のつながりを表現できるようにする。 ◎自分の手法や言葉で返信を書き表せるか。

(4) 本時の指導

①目 標

- ・一郎の手紙を届けようとする源さんの気持ちについての自分の考えを、交流によって深めたり広げたりしようとする。 (関心・意欲・態度)
- ・源さんの様子や気持ちについて考えを深めたり広げたりする。 (理解)
- ・源さんの気持ちを見直し、自分の言葉でよりよく書き表す。 (表現)
- ・文末表現や倒置法の効果に着目しながら言語感覚を働かせて読む。 (言語事項)

②展 開

学 習 活 動	表 現 活 動	・支 援 ◎評 価
<p><前時の展開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・源さんが歩いた道の様子を学習シートに書き込む。 ・源さんの思いがわかる文章とそこから想像した源さんの思いを学習シートに書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にチェックを入れながら読むよう助言する。 ・支援カードの用意。 (取り上げたい描写・気付かせたい源さんの思い・キーワードなど)
<p><本時の展開></p> <p>1. 前時を振り返る。 ・学習課題の確認。</p> <p style="text-align: center;">源さんは、どんなことを思いながら一本杉まで歩いていったのか？</p> <p>2. 友達の学習シートを参考にしながら、自分のシートを加除修正する。</p> <p>3. 学習シートを参考に学習課題について自分の考えをまとめる。</p>	<p style="text-align: center;">◇表現 ▽交流活動</p> <p>▽友達の作品を見に行っ て、学習シートの充実 に生かす。</p> <p style="text-align: center;">交流イ・ア</p> <p>◇▽自分の考えがうまく 表現できるよう言葉を 吟味する。</p> <p style="text-align: center;">交流ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習に作成したシートの写しを用意する。 ・各自に応じて、参考にしやすい友達のシートを紹介する。 ◎友達のシートを参考にして自分の表現をよりよいものにしたか。 ・吹き出しやインタビューなど、表現しやすい方法で書くよう助言する。 ◎自分の言葉で源さんの思いが書き

<p>4. 自分の作品を読み直して自分の考えがうまく表現されているところに赤線を引く。</p> <p>5. 学習感想を書く。</p>	<p>▽自分の書いたものを読み直し自分の思いと表現を再確認する。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">交流ア</p>	<p>表せたか。</p> <p>・赤線が引けない児童は教師や友達と一緒に探す。</p> <p>◎自分の表現に赤線を引けたか。</p> <p>◎自分の学習に感想が持てたか。</p>
--	---	---

③ 評価

- ・ 観点をもって「交流」し、自分の考えを深めたり、広げたりしようとしたか。
- ・ 源さんの様子や気持ちについての自分の考えを見直し、自分の言葉で源さんの思いをよりよく書き表したか。

(5) 研究の成果と課題

本分科会では、『効果的に「交流」を起こすことができれば、よりよい表現（書く）を求めていく児童が育つ』という仮説のもとに研究を進めてきた。授業の検証を通して、次のような成果と課題を得ることができた。

・ 「交流」

児童が進んでよりよい表現を求めていく学習の場として「交流」を考えた。自分の考えをもち表現するための交流（交流ア）とよりよくしていくための交流（交流イ）を、児童が一度表現したものをより高めたり深めたりするための場として設定したのである。「交流ア」においては、児童は自分自身や作品と深く関わり、自分の考えをしっかりとつことができた。「交流イ」においては、友達の考え方や表現方法にふれることによって、自分の表現を振り返り、書き加えや修正、あるいは次の表現の場に生かすなどの活動に結びつけることができた。学習はあくまでも個人のものであるが、その過程で、集団の力を借り個を伸ばす可能性を見いだすこともできた。

しかし、児童の活動に負うところが多いだけに、「交流」の中で、叙述に立ちもどる読みの機会をどのように位置づけるか、また、話し合い活動をどのように組み込んでいくかなどについて、さらに検討していく必要がある。「交流」の観点の明確化や全体で共通に理解すべき事柄の押さえ方について今後の課題としたい。

・ 支援、評価の工夫

指導計画に基づいて、本単元全体についての児童の実態と支援を考えた一覧表を作成した。この表の作成により、各時間の支援がはっきりするだけでなく、単元の学習全体を見通した支援を考えることができた。さらに、単元全体の構造を見通すことも容易になった。この一覧表をもとにして時間ごとの支援計画を作ったが、支援の観点をはっきりさせることができ、また児童の実態を段階に分けてとらえられ、授業中の支援の能率化に大きく役立った。このような支援は、そのまま評価につながるのもその意味でも有効であった。支援についての一覧表を一般化することで、日常の授業に常に生かせるようにしていきたいと考えている。また、児童の発達段階を考慮に入れて能力を系統的に考えることが十分にできなかった。支援との関係において、研究の必要を感じている。

(1) 教材名 「たこたこあがれ」

(2) 研究主題と教材とのかかわり

本教材は、今なお日本各地で行われているたこあげの行事を、「どんなたこがあるか」「どんな願いを込めて作られ、あげられるのか」という問いに答える形で書かれた説明文である。たこについて、いくつかの観点を明確にして書かれているので、要点の把握を無理なく行うことができる。

また、お正月の遊びとしてのたこあげという認識しかなかった多くの児童にとって、書かれている内容は、新しい発見であったり驚きであったりする。このことは、児童の知的好奇心をゆさぶり、感想をもちやすい教材である。大事なことを落とさずに読みとり、自分の考えや感想をもちながら、再構成したり、それを読み合ったりする学習活動を取り入れることは、読みをたしかで豊かなものにするとともに、よりよい表現を取り入れていこうという児童の意欲を喚起するものと考えた。また、願いを込めたたこの紹介文を書くことでこの教材が生活の中に生きてくると考えた。

(3) 学習計画の概要（全13時間 本時6/13）

時	主な学習活動	主題に迫るための具体的な手だて（・支援◎評価）
一 次 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 全文を読み感想を書く。 学習や読みのめあてを決め、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初発の感想を生かすように支援する。 ◎めあてをもち、学習の見通しをたてることができたか。
二 次 (8)	<ul style="list-style-type: none"> 「たこたこあがれ」を段落ごとに読みとり、自分なりの方法で書きまとめる。（第4段落はたこを説明する文章を書く。） 書きまとめたものを読み合いよい表現について発表し合う。 修正や書き加えをする。 各段落の要点を1～2文でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習をパターン化し、学習の手引きの活用を促す。 前時までのワークシートや提示物の活用を促す。 既習のたこと比べるように助言する。 ピカイチ、いただきカードの活用を指示する。 ◎観点を明らかにして、分かりやすく書きまとめることができたか。 ◎自分で頑張ったところや、友達の表現のよいところをみつけることができ、自分の書きまとめや次のめあてに生かすことができたか。 ◎要点を1～2文でまとめることができたか。
三 次 (3)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の願いをこめたたこを作り、紹介文を書く。 提示したり、写真と共に文集にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4段落の学習を振り返るように指示する。 紹介をするための観点を明らかにするよう助言する。 ◎分かりやすく紹介文を書くことができたか。

(4) 本時の指導

- ①目 標 ・「おによろず」について自分なりの言葉でまとめ、進んで読み合おうとする。
 (関心・意欲・態度)
- ・「おによろず」について、観点をはっきりさせ、自分なりの方法や言葉でまとめることができる。
 (表現)
- ・「おによろず」の特徴を読み取り、要点をまとめることができる。
 (理解)

②本時の展開

学 習 活 動	表現活動	・ 支 援 ◎ 評 価
1. 前時を振り返る。 ・学習課題を確認する。		・前時までの学習を提示する
おによろずは、どんなたこで、どんな願いをもって作られたのだろうか。		
・めあてを確認する。 2. 第3段落を読み、おによろずについて読み取ったことを書きまとめる。 3. 書きまとめたものを互いに読み合う。 4. 自分の書きまとめたものにつけ加えをしたり修正をしたりする。 5. 友達の表現やまとめ方のよいところを発表する。 6. 要点を確認する。 7. 授業の感想を書く。	・読み取ったことを自分なりの方法でまとめる。 ・友達の表現のよいところを見つけピカイチカードに書く。 ・気付いたことから、修正をする。 ・感想や次に生かしたいことを書く。	◎個のめあてがもてたか。(発表, シート) ・学習の手引きや前時の作品をみるよう助言する。 ・観点や要点にも気付かせるよう助言する。 ◎友達の表現やまとめ方のよさをみつけたか。(観察, カード) ・本文で確かめるよう助言する。 ・互いのよいところを認め合えるよう、よく聞くように示唆する。 ◎筆者の問いかけに対する答えの文が書けたか。(ワークシート)

③評 価

- ・おによろずについて、読み取ったことを書きまとめ、読み合うことができたか。
- ・書きまとめ、読み合うことにより、要点をまとめることができたか。

(5) 研究の成果と課題

<成果>

①単元構成の工夫

- ・学習計画や前時までのワークシート，学習したことのまとめなどを提示した。その結果，児童は見通しをもって学習したり，表現内容や表現方法をよりよくするための参考にしたりするなど主体的な学習の姿が見られた。
- ・自分の願いを込めたたこを作り皆に紹介するという活動は，児童の願いに一致した活動であり，それを学習のめあてにしたことにより，意欲を持続させることができた。
- ・再構成は内容を理解する上では有効であった。

②学習の個別化

- ・一人一人が自分で選んだ表現方法で再構成をしていたので，児童は意欲をもって楽しく書くことができた。また，児童が自分で幾つかの方法を試したり，友達の様々な表現を見たりしながら，より分かりやすいまとめ方を考えるようになっていった。
- ・毎時間，個のめあてをもたせたことにより，自分が表現したい内容や方法をより具体的にイメージさせることができた。また，授業感想で「めあての通りできた」と書く児童もおり，自己評価する上での1つの視点となった。

③自己評価，相互評価の工夫

- ・ピカイチカードに書かれた内容から自分のよさに気付くと同時に，自分の表現が認められた喜びもあり，自信をもって書くようになった。
- ・発表いただきカードに書く活動は，自己評価するとともに友達のよさに気付くことであり，自己評価と相互評価の両方に役立った。
- ・授業感想を書くことを通して自分の表現活動を振り返り，よりよくなるための次時のめあてをもつことができた。
- ・書いたものをとじて冊子にし，後書きを書くことによって単元を振り返り，自己の変容に気付くことができた。

④評価計画，支援計画の作成

- ・毎時間の指導内容の重点を決め，その内容を簡単な単語（要素）に置き換えることによって，指導内容が把握しやすく，支援表への書き込みも簡単になった。
- ・支援計画と評価計画が一体化した支援表は，児童の変容が見えやすくなり，単元のどこでどんな支援をすればよいかより明確になった。

<課題>

- ・再構成は，内容を理解する上では効果的であるが，自己を表現する力を育てるという点では限界がある。説明文においては，自分の生活とのかかわりを意識させながら表現する力を育てるような単元展開を工夫する必要がある。
- ・読み合いの時に，自分は友達の何（どこ）を見てくるのかをきちんと把握してから読み合えるように，評価項目の精選や視点のあて方を工夫する必要がある。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

自己表現力とは、「自分らしさを取り入れて表現することができる活動を支える能力」であるとの前提に立ち、読みの過程における表現力の育成を目指して研究を進めてきた。この研究により、次のような成果を得ると共に、課題も明らかになった。

1. 成 果

(1) 読みの過程における表現力の育成

読みの過程における表現力の育成を追究してきたことにより、表現と理解との関連が明らかになってきた。読みの学習過程において、児童は、まず、作品と出会い自分の中で思いや考えを抱く。そして、それを書く、あるいは話すという形で自分なりに表現する。その表現されたものを友達と互いに交流させることによって自分の読みを深め、よりよい表現に気付き、自分の表現に生かそうとする。この一連の流れの中でより豊かな自己表現力が育っていくことが授業実践を通して検証された。言うまでもなく、そこには計画的な支援が必要である。

(2) 「児童に付けたい力」と「望ましい姿」の分析

表現力を「書く力」と「話す力」の両面からとらえ、学習段階と発達段階に合わせて、「児童に付けたい力」と「望ましい姿」という形で分析した。さらに、その力を付けさせるための支援の方法についても分科会ごとに研究し、まとめた。これにより、付けたい力がより具体的にとらえられ、またそのための指導の手だてを考える資料として、国語科の指導の中で有効に生かせるものができた。

(3) 友達や自分のよさに気付き合うことの価値

自己表現力は、国語科のみにとどまらず、学習全体、さらに、生活全体にまで広がって生きて働くようになったとき本当の意味を持つものと考ええる。児童は、友達との関わりの中で友達のよりよい表現に気付いたり、また、自分のよさにも気付くことができた。さらに、そのよさを自分の表現に生かそうとする姿勢を培うことができた。これは、今児童に求められているコミュニケーション能力や主体的に考え判断し行動していく力を養う一つの土台になっていくものと考ええる。

2. 課 題

日常の学習指導は、限られた時数の中で、より充実した形で行われなくてはならない。自己表現力の育成を読みの過程の中で考えるときも支援を計画的・効果的に行うことが大切である。個に応じた支援を考え、様々な形で行ってきたが、より適切な、また、有効な支援を継続的に行うには、より効率よく重点化したものを考え追究していく必要がある。